

市民の会
富士根信子
議員



○ 小笠原333年祭への協力と北陸新幹線開通に対しての誘客について ○ 市史編さん室の図書館移設と勝山市立郷土資料館設置の提案

その他の質問

- ・中学校再編計画について
- ・公立保育園の廃園理由について

議 本家 勝山小笠原の会では、親子で楽しむイベントや地域の皆さまとともに清掃活動をしている。また、小中高生などが現地を見学して、勝山の歴史を学校などで学ぶ機会を設けるなど、市の協力をお願いしてほしいと懇願された。

理 2024年は小笠原公が勝山に入封してから333年目の記念の年となる。この時期に小笠原333年祭として何かイベントができないか考えている。

このような市民の取り組みを北陸新幹線の誘客施策の1つとして取り組む計画はあるのか伺う。

理 第6次総合計画の政策目標として掲げている「やりたいうちに挑戦できるまちを創る」ために、わくわくクラウドファンディングイベント事業補助金などの補助メニューがある。それらを活用して、まずは自分たちが楽しみながら小笠原公を顕彰するイベントの実施をお願いしたい。

議 教育会館3階にある市史編さん室は、大変狭く、閲覧しにくい状態にある。文化財保護・保全のために市立図書館2階にある行政資料室に移転してはどうか。

さらに、勝山市全体が分かる郷土資料館の設置や市内に点在する資料館の環境整備、専門家の配置について見解を伺う。

理 図書館の行政資料室は、図書館の重要な機能の1つになっており、図書館サービスの維持のために必要である。各時代を象徴する文化財関連施設（縄文遺跡等資料室、白山平泉寺歴史探遊館まほろば、旧木下家住宅、はたや記念館ゆめおーれ勝山）を巡ることで、勝山市全体の歴史や文化に触れることができるようになる。文化財関連施設が一体となつて勝山市の歴史・文化を知る機会の創出や情報発信などを行うとともに、歴史や文化を身近に感じ、気軽に知ることができる方を検討していく。

まほろばとゆめおーれ勝山には学芸員を常駐させ、ジオや歴史、考古学の専門員・学芸員は商工文化課に配置している。展示や講座の開催には学芸員等を参集し、議論を進めている。

市民の会
中山光平
議員



○ 新型コロナ対応について

その他の質問

- ・市民、議員、行政間で発生するコミュニケーション不全について



※①②



※③

議 新型コロナワクチン遺族会が結成され、集団訴訟が進められている。

本来は、このような被害者を出さないよう努めなければならぬ。そのためには、新型コロナに関する情報のリスクとベネフィットを平等に周知するべきだ。

これまで国民に示してきた資料には、あたかもワクチン未接種者が心筋炎、心膜炎を発症しやすいように見せかけたり、陽性者になりやすいように見せかけたりと、事実とは全く逆の資料があった。これらの資料を提示してきただが、市では調べたのか。また、市で周知を図れるか。

理 新型コロナワクチン接種に係るパンフレット等は、厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会等で審議を受け、厚生労働省から提供されている。

厚生労働省が提供するパンフレット等はすべて厚生労働省のホームページから閲覧でき、また勝山市のホームページにリンクを掲載しており、個別のパンフレット等について周知の是非を判断することはない。

議 厚労省のホームページの情報は膨大にあり、調べる市民の負担が大き過ぎる。

次に、別の観点からも情報を共有するが、これらの調査を個々人に求めるのは異常である。

※①インフルエンザワクチンは、09年10月～22年3月の間に20件の死亡例があるが、新型コロナワクチンは22年9月までの約1年半で約1670件の死亡例が報告されている。

※②財務省が作成した資料でもインフルエンザと新型コロナを比較し、重症化率等がほぼ変わらないことが示唆されている。

※③予防接種健康被害救済制度認定者数では、制度ができから約45年で最も多く認定者数を出したMMRWワクチンは1041件だが、新型コロナワクチンは接種開始から2年足らずで1228件の健康被害者が認定されている。

(11月24日時点)

他市では、偏った情報にならないよう独自に周知方法や接種券の一律配布方法の見直しを行っている。市民に誠実な対応をしてこそ、我々の仕事である。